

Infant Scientist

赤ちゃん・ちびっこ通信



「赤ちゃん研究員」にご登録、ご協力をいただきまことにありがとうございます。昨年以降の状況で何かと落ち着かない日々がつづいています。ご協力いただいております私どもの調査も、調査室までお越しいただくかたちの調査を限定する一方で、ご自宅で保護者の方に実施頂く調査へのご協力をお願いするなど、各種ガイドラインを参照し、国内外の情報収集をもとに検討を重ねながら、あらたな調査体制を整えた上で進めさせていただくことになりました。このため、例年のようなペースで調査協力をお願いすることができず、お待ちいただいたままになってしまった方には、せっかくご登録を頂きながら本当に申し訳ありませんでした。そして、そのような中でご理解を賜り、ご協力を頂きましたお子様と保護者の皆さま、まことにありがとうございました。

「九州大学赤ちゃん研究員」は、2019年6月に調査室を大橋キャンパスに移転後、この3月現在で1252名の方（ご卒業された方も加えるとこれまで2634名の方）にご登録・ご協力を頂いています。ご協力いただいた調査成果をもとに、今年度は1点の英語学術論文と1冊の著書（翻訳書）を公刊いたしました。その他の論文等も執筆・準備を進めています。国内外の学術集会は多くがオンライン開催となりましたが、12月には私どもの研究室も西南学院大学人間科学部心理学科との共催で第13回日本人間行動進化学会を運営しました。研究会・学会での講演、発表等もおこなってまいりました。また、研究成果の一部を11月放映のNHK「チョコちゃんに叱られる!」、12月放映のNHKBS「ヒューマニエンス」、で紹介させていただく機会もありました。2月には、公刊された英語論文に関する紹介記事が日本経済新聞に掲載されています。

このようなかたちで紹介をさせていただいていますひとつひとつの発見や知識が、赤ちゃん・お子さん、保護者の方にご協力いただいたことによって成り立っていることを忘れず、今後もひきつづき日々の調査・研究にあたります。どうぞよろしく願いいたします！まだしばらくは気の抜けない日々がつづきそうですが、一日も早く事態が収束し、研究員のお子様、保護者の方に調査室でお会いできる日々も戻りますように。どうかお元気にお過ごしください。

今年度ご協力いただいた&現在進行中の調査をご紹介します

援助文脈における「お節介」理解とその発達—5~9歳児を対象とした調査より—

担当：佐藤優帆 対象児：約5歳0ヵ月~9歳6ヶ月

この調査では、子どもが“お節介”な援助行動をどのように評価するのか、またその評価は発達に伴ってどう変化していくかを検討しました。「やりたいことがうまくいかずに困っている人に対して、少し過剰な（いわゆる“お節介”な）お手伝いをする人」が現れるアニメーションをお子さんに提示し、“お節介”なお手伝いを受けた人物の気持ちについて回答していただきました。回答方法としては、笑顔や悲しい顔などいくつかの表情から一番ぴったりだと思えるものを選択してもらいました。その結果、全てのシナリオにおいて7~9歳児が、一部のシナリオにおいては5歳児も「邪魔されて嫌だったと思うから」などの理由により、「“お節介”をされた人はネガティブな気持ちになるだろう」と考える傾向が見られました。なお、本調査は動画を収録したiPadをご自宅に郵送し、保護者の方に実施していただきました。

乳児・幼児・児童の自己観の発達

担当：新田博司 対象月齢：(1)2～24 か月児，(2)22～26 ヶ月児，(3)4～9 歳児

子どもが「自分」というものをどのように捉え、行動しているかを検討するために、次のような3つの実験を行っています。(1) 乳幼児期において、自分の顔と名前をどのようにして結びつけているのかということを検討する調査，(2) 自分の顔を見るとき視線パターンと鏡に映る自分への反応の関連を検討する調査，(3) 他者からの「自分」の評価に影響する「恥じる」という行為の解釈の発達を検討する調査です。これらの調査により、子どもの「自己観」がどのように発達していくのか検討しています。現在進行中のため、結果等の詳細な報告書についてはお時間をいただきます。

「声を出したのは誰？」幼児期における発話の解釈（オンライン調査）

担当：宇土 対象年齢：4～6歳

コミュニケーションでは、様々な状況で様々な言葉が発されます。場合によっては特に意識せずに発話するような「あっ」、「うわっ」、「えい」といった間投詞が使われることもあります。本調査では、このような間投詞や、間投詞ではないが間投詞のような使われ方をする言葉（「いたい！」や「びっくり！」など）が発話されたときに、「その状況下では、誰がその言葉を使う可能性があるのか」と考えるのかについて調査しました。この研究は、昨年度行っていた調査を発展させ、間投詞の種類比較や、状況での比較をより精緻に分析するものとなっています。調査では音声が出る10種類の動画を見てもらい、その中で声を出していたのは誰かを答えてもらいました。また本研究はご家庭のパソコンやスマートフォンを用いたオンライン調査としてご協力していただきました。結果については、現在分析中です。

ある集団をひとくくりに表現するような言葉の解釈と判断

担当：重永日向子 対象年齢：成人

社会の中において、人が他者に対して、他者の年齢や所属などをもとにカテゴライズして捉えることがあります。例えば『大人は〇〇だ』や『学生は〇〇だ』などの表現は、大人や学生の一人ひとりではなく『大人』や『学生』という集団全体の傾向が表される時に使われます。このようにひとくくりに捉えることで集団の持つ特性を捉えやすくなるという良さがある一方で、その特性を持たないような例外的な人を見落とすリスクも生じます。ある集団をひとくくりに表現するとき、ひとくくりにされる対象が自身にとって身近な人の集団の場合と、そうではない場合で表現の使われ方に違いがあるかもしれません。現在、成人を対象にした調査において、ある命題（「〇〇は△△を持っている」など）の主語として、個人を指す名前と集団を指す名前が使われたときの違いや、その集団や個人が身近かどうかによる違いを、その命題が正しいかどうかの判断の速さに影響すると考え、検討しています。また、本調査は、今後の研究の流れとして、子どもにもその研究を拡張し、幼児期（学童期）における名前の捉え方について検討を進める予定です。

研究室からのお知らせ

- 2019年度より、赤ちゃんラボ（調査室）が九州大学の太宰府地区に移転しました。

〒815-0032

福岡県福岡市南区塩原 4-9-1 九州大学 太宰府地区レンタルラボ
アドバンスデザインプロジェクト棟 4階共同研究室-2

- 2017年度より、小学校に入学されるお子さんのいらっしゃるご家庭には「子ども研究員」への継続登録をご案内しております。引き続きのご理解、ご協力をお願い申し上げます。
- お引越しなどで登録内容（電話番号・住所など）に変更が生じた場合、また遠方へのお引越し等で登録の解除を希望される場合は、HPのフォームよりご連絡ください。変更の手続きをさせていただきます。

九州大学 人間環境学研究院・教育学部 発達心理学講座

橋彌 和秀（はしや かずひで）准教授

〒819-0395 福岡市西区元岡 744

イーストゾーン1号館 E-A306

TEL & FAX (092) 802-5170

Email: babykyushu@yahoo.co.jp HP: <http://www.babykyushu.org>

